



秋田の素晴らしさを見つめ直し、 まとめ直す契機に

〔秋田市観光クチコミ大使〕
日本銀行
文書局 参事役

よし はま ひさ よし
吉 濱 久 悦 氏

4月になり、多くの企業で新たな事業年度が始まっていることと思います。新型コロナウイルス感染症への対応が続き、先行きの不確実性を前に難しい局面ですが、事業推進、県経済発展にご尽力されている皆様に、心より敬意を表します。

昨今の状況で、美酒を酌み交わし、秋田をPRする機会は多くない分、秋田の素晴らしさについて、思いを巡らしています。秋田で暮らした2年間は、豊かな自然や食、心温かい人々との交流に恵まれました。全国一を誇る重要無形民俗文化財は印象深く、「秋田の竿灯」、「土崎神明社祭の曳山行事」等、各地を訪れました。阿仁町の「根子番楽」では、伝承された口上と舞に、滔々とした歴史の流れを垣間見ました。

「秋田の真の良さは暮らすと分かる」と秋田ゆかりの人達は言います。秋田の素晴らしさは、有形文化財など、「カタチあるもの」以上に、日本人が古来より大切にしてきた生活・価値観といった「無形の資産の豊かさ」が特徴ということかもしれません。四季折々の自然の中で育まれる、農作物・海産物を使った伝統料理、日本酒造り、祭礼、芸妓文化、温かな人柄。これらを短期間に体験するのは容易でないため、じっくりと向き合う機会が必要だと思います。秋田が取り組むワーケーション推進等を通じて、長期滞在者が新たな秋田ファンになる可能性を感じます。

旅行が難しい時節柄、2月の「なまはげ柴灯まつり」は、秋田ケーブルテレビのインターネット配信を通じ、東京でライブ視聴しました。石井漢父子作の「なまはげ踊り」も勇壮で、情報通信技術を利用した新たな体験が、距離等の制約をクリアし、将来の訪問動機を強めるには効果的な手段であると実感しまし

た。関係者が協働して、通年の祭礼をライブ配信するポータルサイトを設け、ここに、通常は県外流通しない地元産品の限定宅配サービスを組み合わせる等の工夫により、仕事・余暇にオンラインが浸透した全国の人々が、波及効果を伴いながら、アプローチしてくるといった期待も高まります。

この間、観光面では、秋田県民向けサービス充実の動きも目にします。感染症対策だけでなく、県民による県内の素晴らしさの再発見は、底堅い需要を掘り起こす点で貴重な財産になります。スポーツでは、ブラウブリッツ秋田のJ2昇格で県内が沸いています。筆者の周囲では、首都圏のチームの熱心なサポーターが、秋田でのアウェイ戦応援と観光を心待ちにするなど、J2の大舞台が、秋田を定期的に訪問する新たな層を生み出しています。

現状の困難を打開するイノベーション創出には、若者の斬新な発想と行動力も必要です。1月末時点で高卒予定の県内就職希望比率が過去2番目の高さとなり、若い世代を新たな担い手にするチャンスと捉えることもできます。

厳しい状況は続きますが、秋田が全世代・分野で結集し、総力戦で臨むうへで大切な動きが、春の訪れとともに其処此処で芽吹くように目に映っています。

■ 略歴

1970年 東京都生まれ
1992年 日本銀行 入行
2017年～2019年 秋田支店長
2019年6月～ 文書局参事役